


**栄養・子ども学部 子ども教育学科**
**講師 渡辺 直人 WATANABE Naoto**
**専門・活動分野 保育学、幼児教育史、フレーベル教育思想**
**最新の研究内容**
**テーマ：フレーベル教育思想・恩物**
**研究/活動紹介**
**背景・目的**

現在、幼児の育ちにおいて様々な問題が浮き彫りとなっています。未来の社会を担う幼児、そして保育について深く考察し、諸課題の解決と展望を拓くことは、現代社会の喫緊の課題であると考えております。

私は幼稚園の創始者であるフリードリッヒ・フレーベルについて研究しております。激しく揺れ動く現代社会において、原点に立ち還り、フレーベルが教育という営みにどのように正対していたか、それらを見つめなおすことは、まさに現代における保育の発展に必要な検討課題の一つであると考えております。

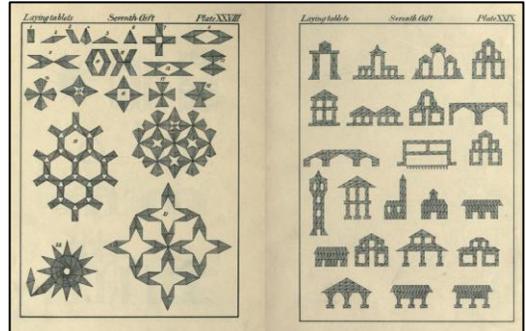
そして現在では、フレーベルの教育思想ならびに、フレーベルが考案した教材である恩物について研究しています。恩物は1838年に考案され、現在では約20種が知られています。

**成果・効果や展望**

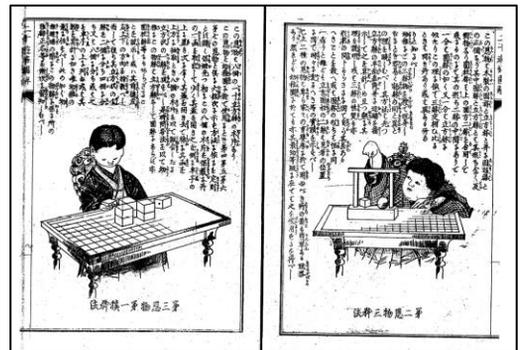
その恩物の考案から非常に長い年月が経っています。時代の変化とともに様々な改変が起こり、教材は恩物というパッケージからはずれ、個別に使用されるようになりました。今では様々な遊具がありますが、元をたどればフレーベルの恩物に辿りつくものも多くあります。「遊びを通して学ぶ」幼児の育ちを考えるうえで、恩物の検討は非常に重要な主題と考えております。

現在、我が国に恩物をもたらされたその当時（19世紀後半）に焦点を当て、当時の恩物の種類や情報の流動について研究しています。日本では、1879年に元仏僧であった関信三によって翻訳された『幼稚園法二十遊嬉』を機に、恩物は広く知れ渡りました。関は元仏僧でありながら翻訳家の面もっており、この本も英語書を原典にしたとされています。最近ではその原典となる英語書の調査を行い、参考源を考察しました。今では、その後の幼児教育界では恩物の取り扱いに関してどのような意識変化がおき、現在に至っているか、その研究を行っています。今後は、これまで（特に19世紀末～戦前）の幼稚園書をみなおし、現在の保育が如何なる影響を受けてきたか検討を行い、保育の発展に資する研究をしてまいりたいと考えています。

&lt;ウィーブ (1869) 『子どもの楽園』 遊具図&gt;



&lt;関信三 (1879) 『幼稚園法二十遊嬉』&gt;


**産学連携/地域貢献へのアピールポイント、相談可能事項**

- 子育て支援活動、未満児を対象とした親子のふれあい遊び広場の活動も行っています。手遊び、絵本の読み聞かせ、体操など取り入れて、親子で楽しめるふれあい遊びを定期的に行っております。子育て支援における広場の相談も可能です。
- 主なる専門はフレーベル教育です。改めて幼児教育の開祖であるフレーベルを見直し、今後の保育の展開につながる糸口を共に探りましょう。

**学会・経歴**

- 日本子育て学会（広報委員）
- 日本ベスタロッチャー・フレーベル学会
- 日本保育学会
- 日本乳幼児教育学会
- 日本子ども学会
- 日本児童学会
- 児童教育学会

&lt;お問合せ窓口&gt;

仁愛大学 地域共創センター TEL 0778-43-6576 e-mail collabo@jindai.ac.jp